

亜急性硬化性全脳炎に対するリバビリン治療に関する研究

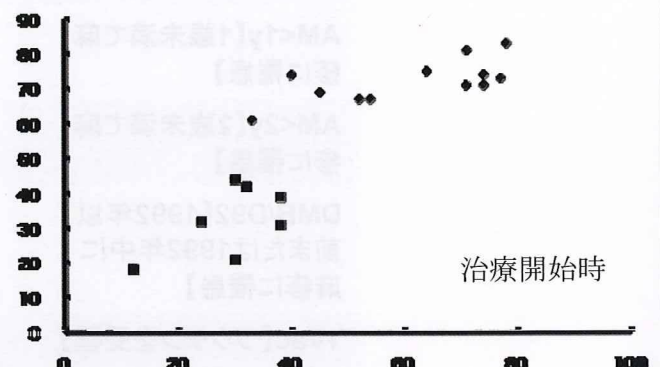
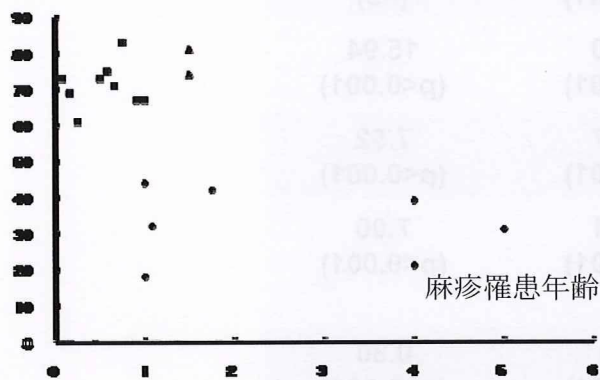
研究分担者： 熊本大学医学部附属病院発達小児科 野村 恵子

図1 麻疹罹患年齢と調査時臨床症状スコア

図2 治療開始時と調査時の臨床症状スコア

臨床症状スコア

調査時

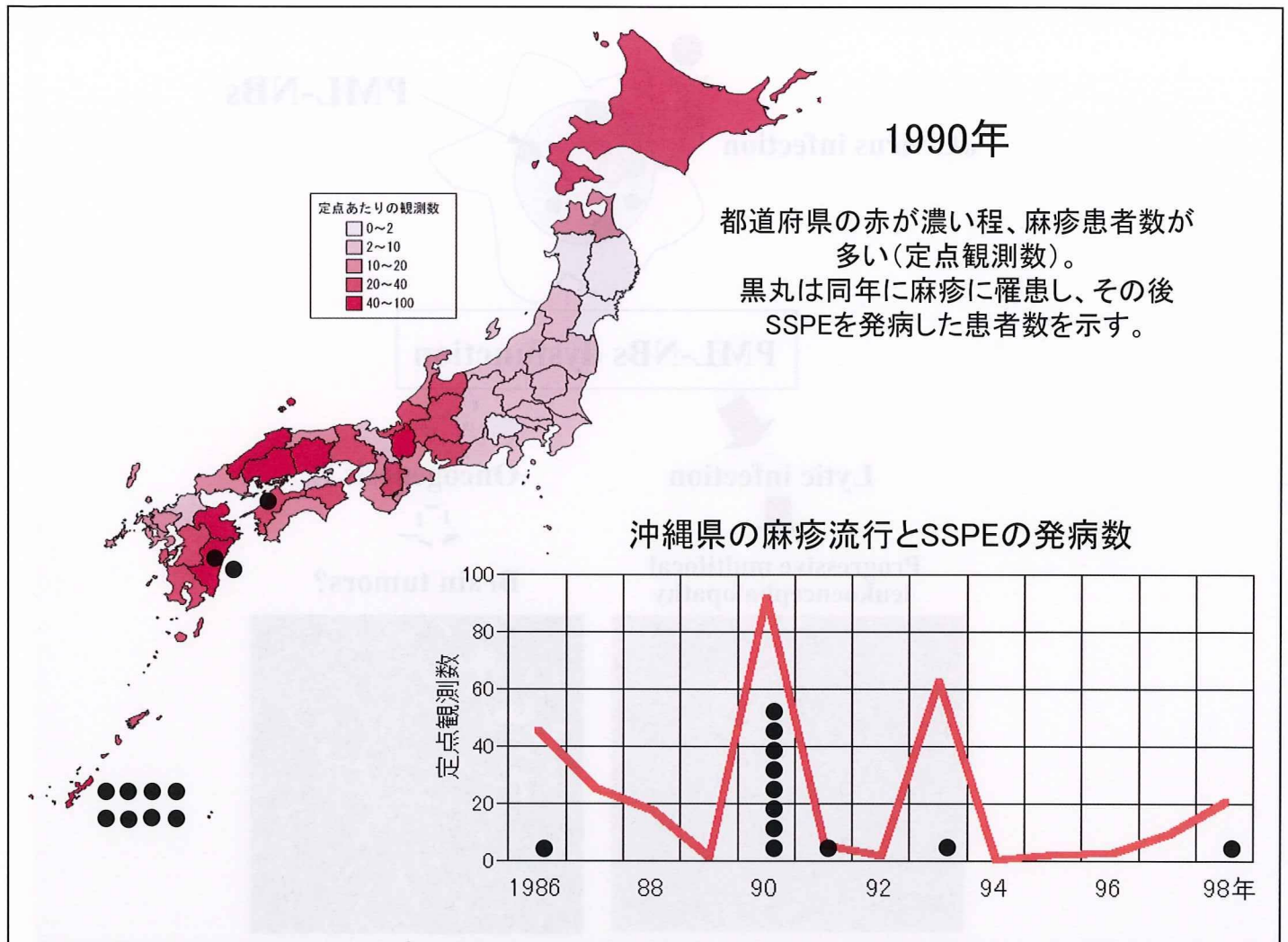


解説

1. 1歳未満で麻疹に罹患している症例は予後が悪く、早期に診断され治療開始できても急速に進行し増悪する例があった。
2. 亜急性硬化性全脳炎の患者にリバビリンの脳室内投与による治療を行った結果、治療開始時に臨床症状スコアの低い症例では、治療後も進行せず維持できる傾向にあった。

都道府県別にみた麻疹の流行とSSPEの発病数

研究協力者： 静岡県立こども病院神経科 愛波秀男

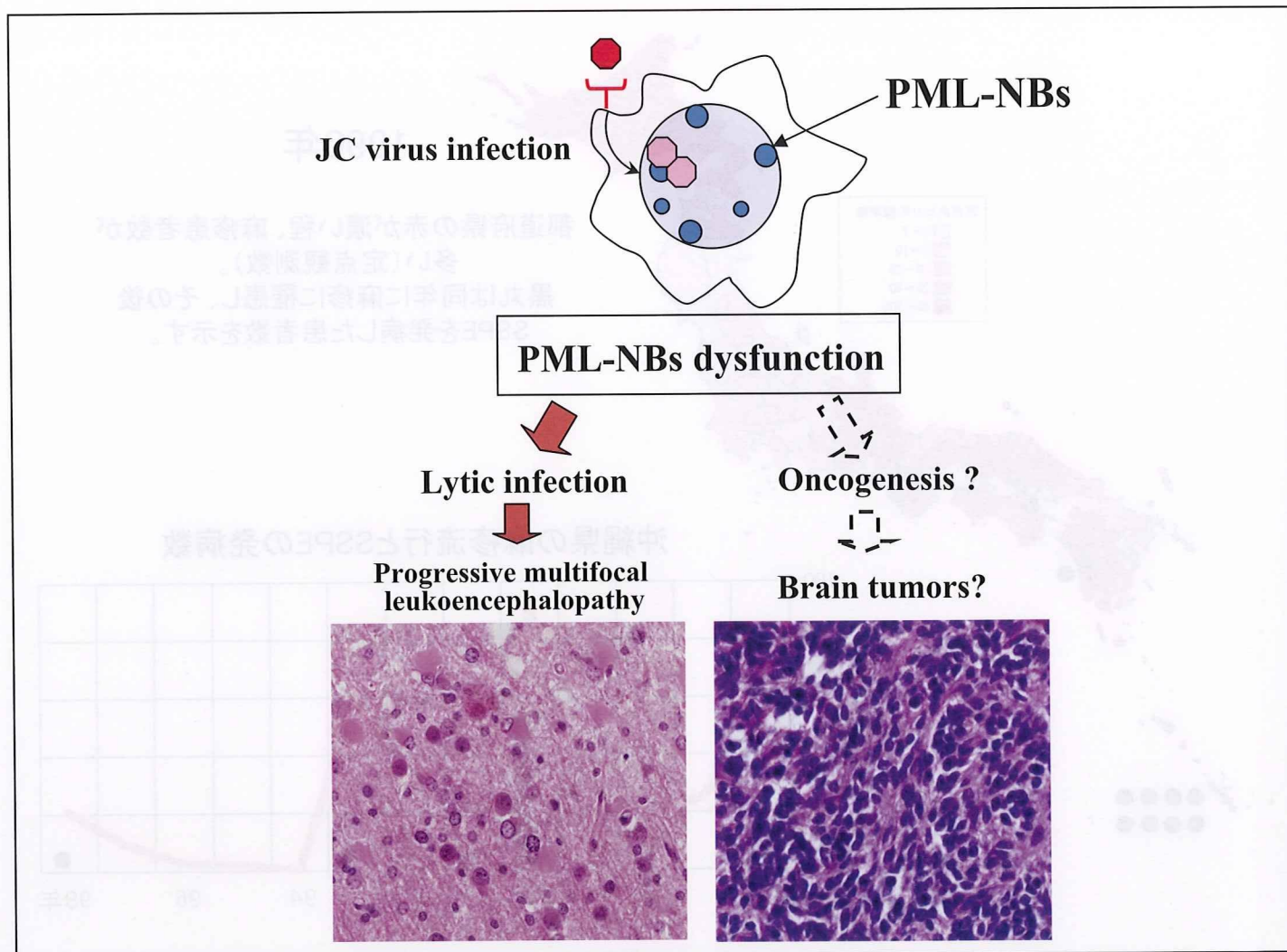


解説

1. 沖縄県では1990年に麻疹が大流行し、この年に麻疹にかかった8名の子どもが、その後SSPEを発病した。
2. このSSPE発病率は沖縄県の他の年と比べても、また他の都道府県と比べても圧倒的に多い。
3. 原因は不明だが、低年齢での麻疹罹患、ウイルスの変異などの可能性が推測される。

JCウイルス感染の標的、PMLボディ

研究協力者：杏林大学病理学教室 宍戸-原 由紀子

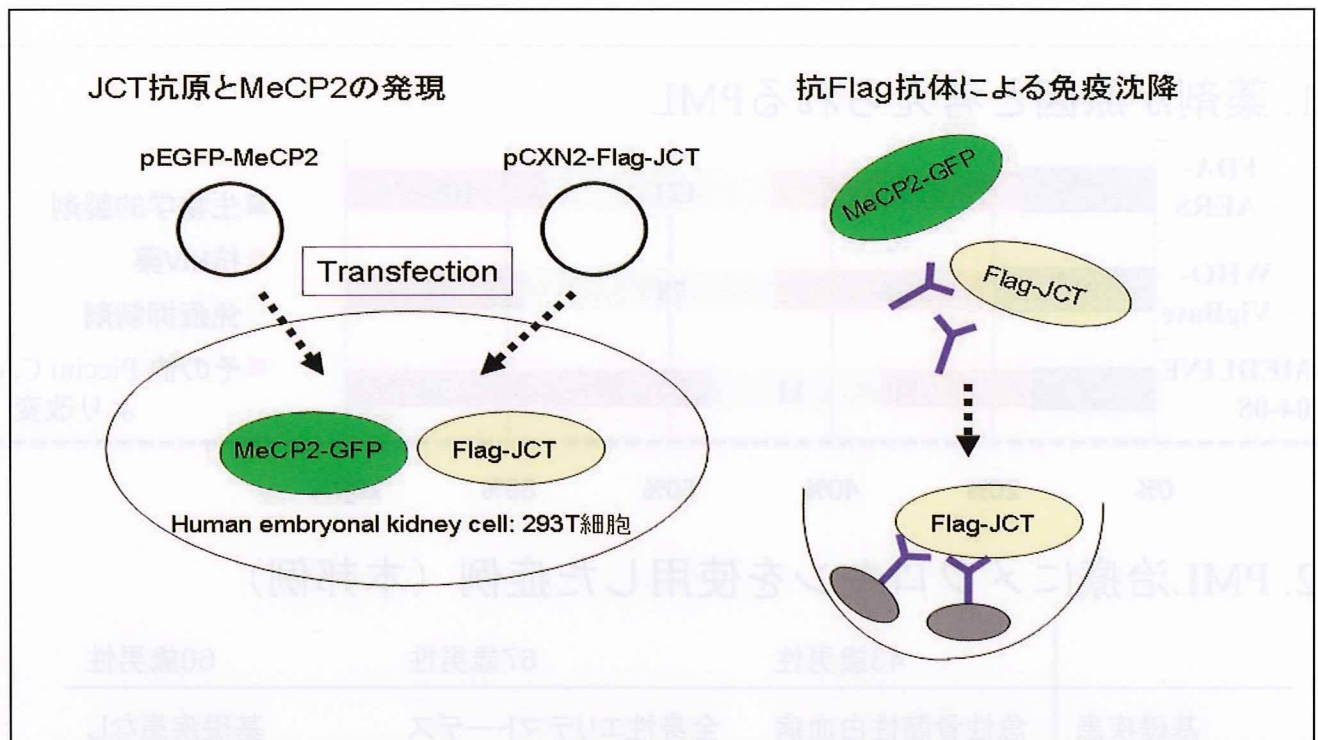


解説

1. 進行性多巣性白質脳症では、JCウイルスはグリア細胞の核内にあるドット状の構造、PMLボディを標的に感染する。
2. PMLボディは細胞周期制御に関与し、ウイルス感染によるその機能破綻が、グリア細胞の変性・脱髄をもたらすと推測される。
3. PMLボディは腫瘍抑制にも関与する。このため、長く議論されている“JCウイルスはヒトに腫瘍発生を誘導するか？”を解明する糸口となる可能性がある。

JCV large TとMeCP2との結合

研究分担者：札幌東徳洲会病院・病理 長嶋和郎



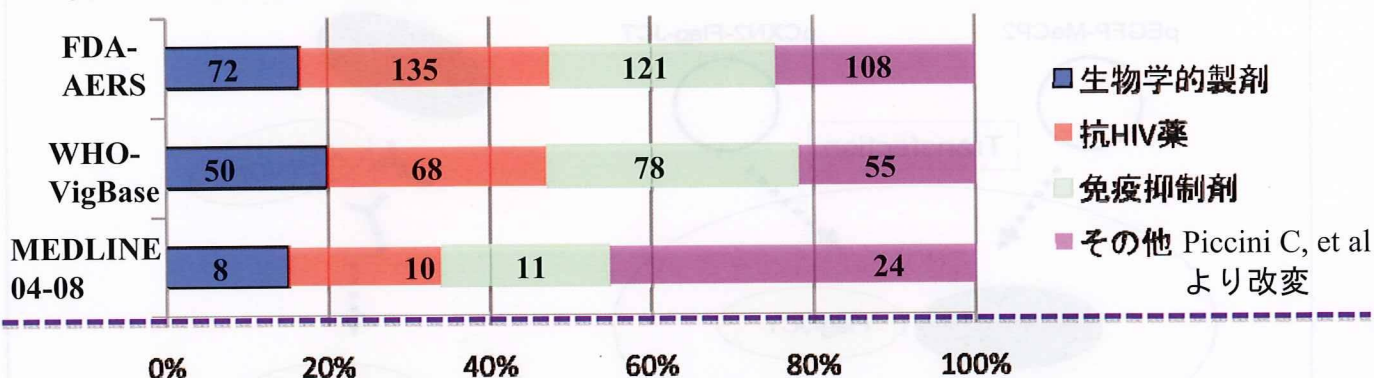
解説

1. MeCP2にはGFP蛍光タグを, JCV large TにはFlagタグを付加しそれぞれの蛋白を293T細胞で発現させる実験系を組んだ.
2. 発現した蛋白をFlagに対する抗体を用いて免疫沈降を行った結果, JCV large Tは沈降したがMeCP2の共沈は認めなかった.
3. この結果, 293T細胞を用いた蛋白の一過性発現実験系ではMeCP2とJCV large Tとの直接の結合は認められなかった.

進行性多巣性白質脳症(PML)診療, 1年間の進歩 -生物学的製剤の関連およびメフロキンの位置づけに関して-

研究協力者: 佐賀大学医学部附属病院神経内科 雪竹基弘

1. 薬剤が原因と考えられるPML



2. PML治療にメフロキンを使用した症例 (本邦例)

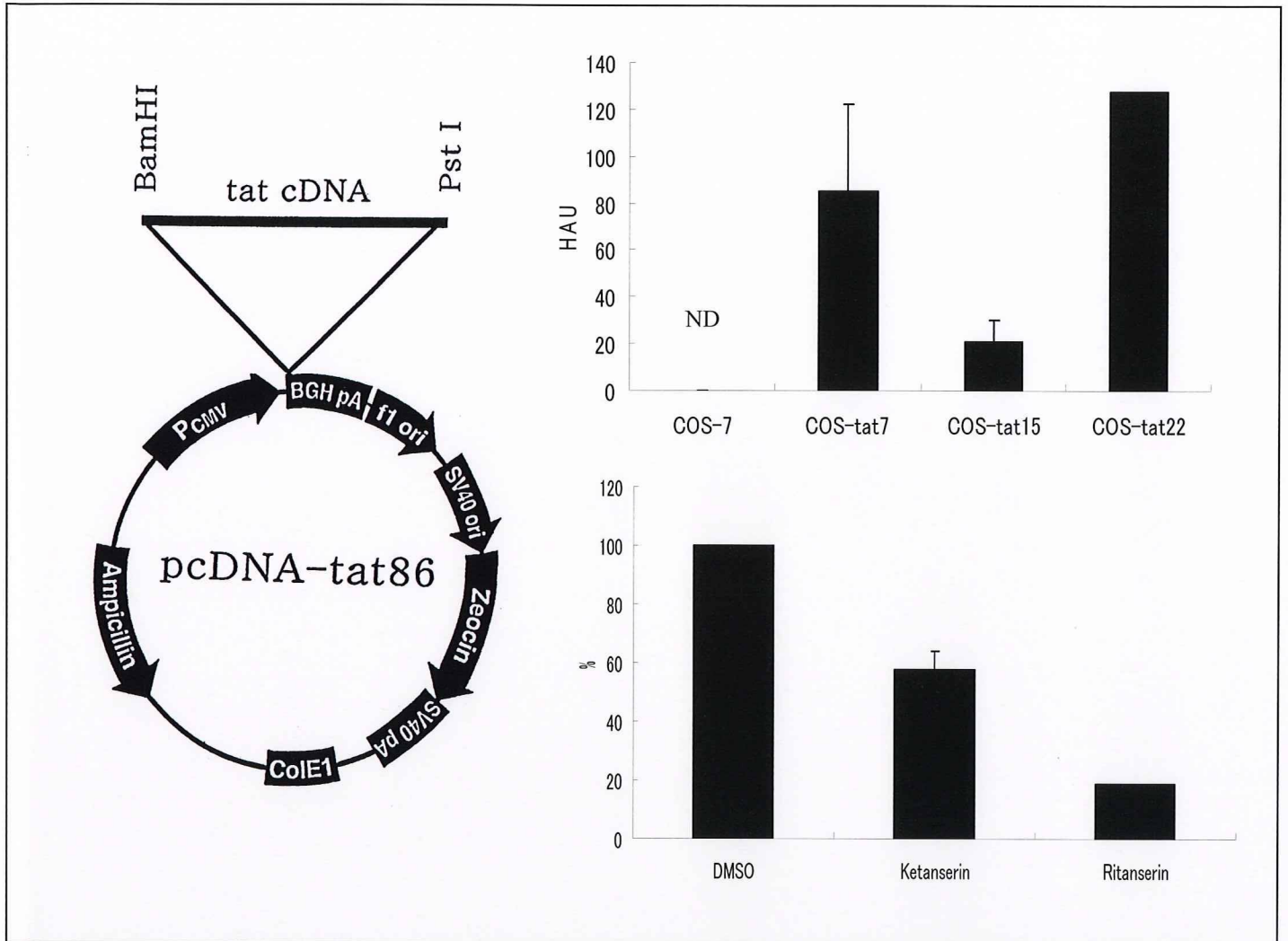
	43歳男性	67歳男性	60歳男性
基礎疾患	急性骨髄性白血病	全身性エリテマトーデス	基礎疾患なし
治療前の状態	ほぼ寝たきり. 経口摂取困難.	寝たきり. 経口摂取困難.	パーキンソン症候群
治療後の状態	反応性の改善. 経口摂取可能	会話がスムーズ. 見当識・記憶力の改善	—
頭部MRI等	画像異常の改善	病巣拡大の停止	軽度神経症状改善
効果の判断	改善	改善	—

解 説

1. これまでに生物学的製剤ではRituximab, Natalizumab, Alemtuzumab およびEfalizumabでのPML発症が知られている.
2. 本邦におけるPML治療にメフロキンを使用した症例(学会報告レベル)は概して効果が期待される結果である.

HIV-1 Tat のJCV増殖促進機構の解明と 抗JCV薬スクリーニング系の確立

研究分担者： 神戸市環境保健研究所微生物部 奴久妻 聡一



解 説

1. HIV-1 Tat発現ベクターを用いて、恒常的にTatを発現するCOS-tat細胞を樹立し、TatがJCウイルスの増殖を促進することが明らかになった。
2. JCVのレセプターである5HT_{2A}Rに結合するketanserin、ritanserinのウイルス増殖抑制効果がみられたことにより、JCV細胞を用いた抗JCV薬のスクリーニングの有用性が示唆された。

